

追加報告

第232回むつ市議会定例会報告（6月21日（水））

質問者 4番工藤祥子議員

質問の要旨 (1) 地区懇談会での意見について

質問の要点 ① 川内校舎が閉校となった場合、旧むつ地区の高校までの通学費の大きな負担が生じることについて市長はどう考えているか。

質問の要旨 (2) 大湊高校川内校舎の募集停止案と「教育機会の均等」について

質問の要点 ① 地理的、経済的理由により教育の機会が奪われることについて市長はどのように考えているか。

【答弁概略】 ※担当である企画部長からの答弁

大湊高校川内校舎への平成26年度から平成28年度までの入学者の状況を見ますと、93名の入学者のうち川内中学校、脇野沢中学校からの入学者は28名で、割合で言いますと約30%となっております。

また、平成28年度の川内中学校、脇野沢中学校の卒業生の進路状況を見ますと、合計33名の卒業生のうち、大湊高校川内校舎への進学者は5名で、割合では約15%となっております。

川内中学校と脇野沢中学校の卒業生の進路状況を見ますと、現状で既に、むつ市内の高校に通学している生徒が大半でありますことから、先月開催されました地区懇談会では、むつ市の意見といたしまして、通学費の負担軽減策について県として、しっかりと対応していただきたい旨、要望しております。また、パブリック・コメントにおきましても同様に通学費の負担軽減策について要望しているところです。

地域的、経済的な理由により高校進学を断念するという事態を生じることはあってはなりませんので、繰り返しになりますが通学費の負担軽減について、県としてしっかりと対応していただきたい旨を強く要望しているところであります。

また、現在、県教育委員会に対する要請活動も視野に入れ準備しているところであり、今後とも粘り強く地域の実情を訴えてまいりたいと考えておりますので、御理解賜りたいと存じます。